



# 研究だより



香川大学教育学部 附属坂出小学校

## 第99回教育研究発表会を終えて

### 学びに熱中する子どもの育成

— 学習意欲を育て、他者と協働しながら考え続ける力を育む授業づくり —



#### ごあいさつ

校長 若井 健司  
副校長 樽本 導和

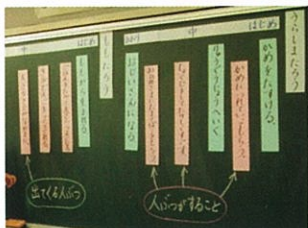
陽春の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、本校では平成29年1月26日、27日の両日にわたり、第99回教育研究発表会を開催いたしました。県内外から延べ約1,250名の参会者をお迎えし、盛会裏に終了することができました。

次年度は第100回記念大会を迎えます。今回、子どもの様相や皆様からいただいたご意見を参考に、附属の伝統を大切にしつつ、地域のモデルとなるような授業を常日頃から創っていきこうと全教職員で決意を新たにしているところです。

懇切なるご指導ご助言をいただきました東京大学大学院の市川伸一先生、文部科学省の澤井陽介先生、水戸部修治先生、笠井健一先生、鳴川哲也先生、香川県教育委員会、各市町教育委員会、香川大学教育学部の先生方、また、運営にご協力くださいました保護者、ボランティア学生および関係各位に対して、心より御礼申し上げます。

「1 東図書館を開いて、自分たちが書いた物語をたくさんの人に読んでもらおう」という目的意識をもって物語づくりに取り組んでいる子どもたち。前時に、自分の物語のおおまかな流れを考えていたことから、本時は、物語を詳しくしようという学習課題をつくりました。そして、昔話を参考にするので、人物がすること、出てくる人物、物を増やせばよいことに気付き、短冊に書いたそれらに関わる出来事を、順序に気をつけて並べ、物語を詳しくしていきました。



より分かりやすく、おもしろくするには、どのようなことを増やせばよいか、昔話を参考に考えていきました。



何度も貼り替えができる短冊に書くことで、その出来事をどの位置に貼るべきか、順序を意識して並べられました。

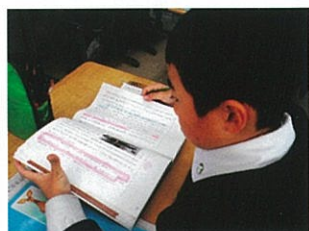


友達と話し合っってよかったという経験を積み重ねるとともに、それらを想起させることで、協働する意欲を育てました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・図書館を開くという目標に向けて、子どもどうしがよりよい物語にするために自然と関わろうとしていた。
- ・1年生では、簡単な構成方法を学習し、それを基に物語づくりの経験をたくさん積むことも大事になる。

子どもたちは、4西ゆめのロボット研究所の研究者として、自分の考えたゆめのロボットを提案書で伝えたいという意識で学習を進めてきました。小林さんの説明文（教科書教材）を基に提案書の書き方について考える中で、子どもたちは、筆者の挙げた活用例の数が異なる理由や順序の意図について知りたいという思いをもちました。そこで本時では、説明文やインタビュー記事の内容から読み取った筆者の願いや考えと活用例とをつないで、筆者の書き方の工夫について考えていきました。



課題解決の手がかりを小林さんの説明文に求め、筆者の願いや考えを振り返りながら、自分の考えをもちました。



「話し合いの約束」を意識して、互いの考えを認め合いながら、活用例の数が異なる理由について話し合いました。



順序については、同じロボットを選択した友達どうしで交流することで、焦点化した話し合いができました。

授業討議でのご意見・ご指導

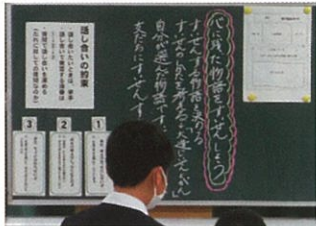
- ・「筆者は本当にそう思っていたのか」と問いかけたことで、子どもの読みを深めることができた。
- ・筆者の意図に迫るために、数よりも順序の方に時間を使う等、扱いの軽重を工夫する必要がある。

## 国語科

第5学年「心に残った物語を推薦しよう - 『大造じいさんとがん』 -」

にしよし  
西吉 亮二

前時までに子どもたちは、心に残った棕鳩十作品の魅力を紹介カードにまとめて友達に推薦するという目的意識をもち、行動と会話に着目しながら登場人物の心情の変化を読み取ってきました。その中で、行動と会話以外に、情景描写にも心情が表れているのではないかと考えました。そこで、本時では、情景描写からどのような心情が伝わってくるか話し合い、他にも心情が表れている情景描写はないだろうかと見つけていきました。



「話し合いの約束」を想起させ、グループの中で質問し合いながら、情景描写から伝わる心情について話し合っていました。



他の情景描写を見つける際、子どもの興味に応じて共通教材か自分の選んだ物語かを選択できるようにしました。



授業で分かったことや次時に取り組みたいことをノートに書かせ、発表させることで次時への意欲を高めました。

### 授業討議でのご意見・ご指導

- ・共通教材と自分の選んだ物語の両方を認めたことで、子どもの思いに合った授業展開になった。
- ・前時までに読み取ってきた心情とのつながりをより大切にすることで、さらに深い読みになっていく。

## 社会科

第4学年「過疎の島はつながりを求めた ～企業の島からアートの島へ～」

わたなべ  
渡部 たけし  
岳史

校外学習で感じた、直島を訪れる外国人観光客の多さ。その疑問を追究し、瀬戸内海の美しい自然の中にあるアート作品が島全体に広がっていることを捉えた子どもたちは、人口の減少が進む中で多くの観光客を受け入れられるのはなぜかという新たな課題を設定しました。本時は、マナーの悪い観光客がいるにも関わらず、受け入れ続けている理由を企業、行政、ボランティア等さまざまな立場から探っていました。



多くの島民が協力してやさしく受け入れていることにに対し、マナーの悪い観光客の例を示して、追究意欲を高めました。



協力体制シートを活用し、立場を広げて考える視点を与え、経済的にメリットのない人に考えを広げさせていきました。



観光客の増加にメリットがないと思われる人々と観光客の関係に焦点を当て、グループで話し合いました。

### 授業討議でのご意見・ご指導

- ・直島をアートの島へ生まれ変わらせる人々の思いや願いに迫ることができる単元構成であった。
- ・協力体制シートにより人間の営みに学べる授業であったが、観光客の立場でも考えさせる場がほしかった。

子どもたちは、ウナギの生産量を増やすために、その稚魚が手に入りにくい日本で、どのような取り組みをしているのかを探っていきました。その際、ウナギが太平洋を産卵場所にする回遊魚であることや川をさかのぼって成魚になること等を手がかりに、「稚魚になる前に取って育てる」「ウナギが川を上れる魚道をつける」等と考え、話し合いの中でその妥当性を高めました。その後、映像等の資料を活用して検証し、ウナギが上りやすくなる川の環境を整備していること等に気付いていきました。

	量よく養 育てる	高い品質 を育てる	取り決め を定める	環境づくり
どんな	・卵のちぎれ やすい ・いすずで大き く育てる	・卵のちぎれ やすい ・ある程度の大き さで放す	・網の目の大き さを定める ・獲る時期や量を 制限する	・魚しょうをつくる
生産量では	・一定の量がと れる ・大きさをそろえ られる	・自然の数が増 える ・えさ代があまり かからない	・大きくなる可能 性を高める	・その場所を増え やすい
問題点	・養育が発生す るコスト ・えさやりなどの 作業	・育てた数にとれ る量が少ない ・ちぎれを育てる技 術	・運賃の工夫が 必要	・費用がかかる ・他の魚へのえ いさよう



既習事項をまとめた表を参考にさせることで、取り組みについて、考えをもちやすくなるようにしました。

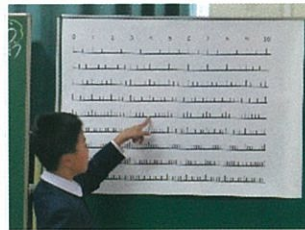
同じ考えの友達と交流させることで、考えを強化するとともに自信をもって考えを伝えられるようにしました。

取り組みの前後を映像等で提示して検証することで、どう改善されたかを、より具体的に理解できるようにしました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・既習事項をまとめた表は、子どもたちが必要な情報だけを選んで取り出すことに効果があった。
- ・ウナギの生産量不足と子どもの生活経験をつなげる手だてがあると、意欲がさらに高まるだろう。

数直線を使いながら、1より大きい分数の意味と表し方を捉えてきた子どもたちは、本時、大きさ比べに挑戦しました。「仮分数どうしの場合は、分子の大きさで比べられる」「帯分数どうしや帯分数と整数の場合は、整数の大きさで比べられる」ことを確認した後、仮分数と帯分数や整数との大きさ比べの方法を考えました。ペアやグループで対話しながら課題を解決していく中で、すべての数を帯分数か仮分数で表せばよいことに気付き、分数についての理解を深めていきました。



ペアやグループで活動する場を増やすことで、自由に質問し合ったり、互いの考えを聞き合ったりできるようにしました。

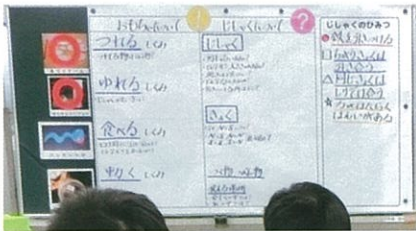
数直線に分数の大きさを表して確認させることで、自信をもって大きさ比べの方法を説明できるようにしました。

「別の数でも大きさ比べをしたい」という思いを基に、問題作りをさせることで、理解を深められるようにしました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・問題作りをさせたことで、理解が深まったり、つまづきが明らかになったりするよさがあった。
- ・すべての子どもが、大きさ比べの方法を説明することのできる場を設けることが大切である。

磁石の性質を生かしたおもちゃ作りをするために、子どもたちは、パッキンへびの仕組みについて調べていきました。まず、パッキンへびの動きを映像で確認した後、口を開けている時と閉じている時の磁石の性質について予想しました。そして、口を開けている時のパッキンへびを作ったり、さまざまな餌を口に入れた時の閉じ方を調べたりした結果から、おもちゃの動きに生かされている磁石の性質とその仕組みを捉えていきました。



仕組みを明確にしたおもちゃの写真と個々の課題を類別した表とをつないで提示し、新たな問題を表出しやすくしました。



口を開けている時の仕組みをペアで確認した後、口が閉じた時の餌について調べ、その結果を話し合いました。



グループでの考察後、パッキンへびの仕組みを全体場で確認することで、自分のおもちゃ作りへの見通しをもたせました。

#### 授業討議でのご意見・ご指導

- ・おもちゃ作りに生かすという単元を通しての目的意識が明確で、子どもの主体的に学ぶ姿が見られた。
- ・予想の根拠を明らかにしておくことが、解決方法や実験結果の見通しをもたせるのに大切である。

「どうすれば電気を効率的に使えるだろうか」という目的意識をもちながら、電気をつくったりためたりできること、変換できることを学習してきた子どもたち。本時は、「ためた電気の使われ方によってどのように違うのか」という学習課題を設定しました。まず、これまでの実験や生活経験等を基にして物による電気の使われ方の違いを予想しました。そして、モーターや電熱線等から自分が調べたい物を選択して実験を進め、効率的な電気の使い方についての考えを深めていきました。



豆電球、LED等の5種類の物から、自分が調べたい物を選択することで、追究意欲を高めました。



シールを用いて結果をグラフ化し、違う実験をした友達と話し合いながら、物による電気の使われ方の違いを捉えました。



振り返りの時間を位置づけ、話し合わせたことで、電気の強さやオルゴールの音量を変える等の問題が表出されました。

#### 授業討議でのご意見・ご指導

- ・意欲的に追究しており、生活とつないで考えたり、新たな問題を見いだしたりすることができていた。
- ・予想の後に仮説を立てて考えを整理しておく、もっと考察が焦点化できたのではないかと。

子どもたちは、幼稚園の青組さん（年長児）のためにおもちゃ祭りを開くことを計画しました。そして、遊びを考え、友達と相談しながら、おもちゃを作ったり遊び方の説明を考えたりしてきました。本時では、まずこれまでの遊びの経験や前時に行った1年生とのおもちゃ祭りの活動を振り返りました。そして、青組さんとおもちゃ祭りをもっと楽しくするために、おもちゃ、遊び方とその説明のしかた等から、さらに工夫が必要なものを選択し、よりよいものにしていきました。



これまでの学習経験を振り返り、青組さんとおもちゃ祭りをもっと楽しくするために何を工夫するかを決めました。



遊び相手が喜ぶような色や飾りを付けたおもちゃにする等、同じグループの友達と相談しながら工夫をしていきました。



他のグループの友達に試しに遊んでもらうことで、青組さんにとって楽しい遊びになっているかを確認しました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・単元構成の工夫により、子どもたちが目的意識と相手意識をもって、学習に取り組んでいた。
- ・相手を楽しませる工夫となっているかどうかを、子どもどうしでもっと吟味させるべきだった。

子どもたちはこれまで、四つの星（夕方の星、たくさんの星、流れ星、朝方の星）を思い浮かべ、その様子に合う音色やリズムをさまざまに試しながら、ペアで音楽をつくってきました。本時では、「四つの星の様子を表す音をつないでみたい」という子どもたちの課題を基に、ペアやグループでどのようにつなぐと星空を表せるか探っていきました。子どもたちは、トライアングルや鉄琴、鈴、トーンチャイムを鳴らして音色やリズムを確かめながら話し合い、解決していきました。



グループ活動では、鳴らす人と聴く人の約束を示し、考えた音色やリズムを意欲的に友達と伝え合いました。



うまくつないでいる友達のモデル演奏を聴くことで、つなぎ方の工夫に気づき、自分たちの演奏に生かしていきました。

誰かを 助けて	〇…かんそう	〇…つぎに してあげたい
	リズムが楽しかった	リズムが楽しかった
	リズムが楽しかった	リズムが楽しかった
	リズムが楽しかった	リズムが楽しかった

自分の頑張りや次にしたいことを自己評価カードに表すことで、次時への期待を膨らませる等の様子が見られました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・約束の掲示やモデル演奏の支援により、「よりよい演奏にしたい。」という学習意欲が高まった。
- ・音をつなぐためにリズムや音色をどうしたのかという工夫が、子どものことばで表されるとよかった。

前時までに子どもたちは、自分がイメージした「強くてかっこいい竜」等に変身するために、輪に付ける飾りをつくってきました。それを友達に見てもらいたい、新しい工夫を見つけないという意識から、本時は、「友達と見せ合って飾りをもっと工夫しよう」という課題を設定しました。初めに鑑賞会をした後、色、形、材料の三つの観点から、どのような工夫をすれば変身したいものになれるのかを考えながら、自分にふさわしい表現方法について吟味していきました。



鑑賞会では、よさを認め合うことで自信をもったり、自分が取り入れたい工夫を見つかりすることができました。



アドバイスコーナーへ行って友達と見せ合い、鏡で自分の姿を確認しながらどんな工夫ができそうかを考えていきました。



前時の飾りの写真と見比べ、色、形、材料の観点から工夫して、飾りがよくなったと実感することができました。

### 授業討議でのご意見・ご指導

- ・資料や手順表の提示、アドバイスコーナーの設置、材料の準備等、教室環境面の支援が有効であった。
- ・鑑賞の時間と、製作する時間のバランスを、今後検討していく必要がある。

これまでにみそ汁の飲み比べや基本のみそ汁の調理実習を経験し、だしやみそについての知識や調理の技能が身につけてきた子どもたちは、前時に「実を工夫したオリジナルみそ汁を考えたい」という問題を見だしていました。本時は、それを基に学習課題を設定し、自分や家族の願いから「〇〇なみそ汁にしたい」というイメージを思い描いていきました。そして、友達と考えを交流したり、既習事項や情報コーナーを参考にしたりしながら、作りたいみそ汁を具現化することができました。



入れる実について友達と交流することで、栄養バランスや色どり、旬等の多様な観点到ることができました。



4種類の実を最終決定し、重視した観点を書いた付箋をケーキ図に示すことで、自分の思いが明確になりました。

時間	内容	学習目標	評価
10分	導入	前時の学習内容を振り返る。	
15分	課題設定	自分や家族の願いからオリジナルみそ汁を考えたい。	
20分	情報収集	既習事項や情報コーナーを参考に、作りたいみそ汁を具現化する。	
15分	交流	友達と考えを交流し、多様な観点到る。	
10分	まとめ	自分の思いを明確にする。	

毎時間、振り返りカードに自己評価を加筆することで自分の成長を実感し、家庭での実践意欲を高めることができました。

### 授業討議でのご意見・ご指導

- ・ケーキ図や栄養分類表、旬野菜の実物、色どり確認用紙等の視覚的な支援が、思考の際に有効だった。
- ・観点を付箋で示す際にも交流すれば、新たな工夫点にも気付くことができ、学びが深まったのではないかと。

うさぎや凧になりきって踊った後、子どもたちは「おもちゃになってみたい」「生き物になりきって踊りたい」「かっこいい働く車になりたい」という新たな問題を表出しました。そこで、子どもたちが経験を想起しやすい順に解決していくことにしました。その際、そのものの特徴や様子からイメージを広げ、それを基に簡単な話を作れば、なりきって踊れることに気がきました。そこで本時は、お気に入りの働く車の簡単な話を作り、即興的に踊りながら、話に合う動きを選んでいきました。



自分になりたい働く車のイメージを広げ、簡単な話を作って、楽しく踊るための動きを見つけられるようにしました。



踊りたいものの特徴や様子をイメージボードに残しておくことで、いつでもイメージを広げる手がかりとなりました。



友達の動きを見て、すぐにまねることで、よい動きに気付き、自分の動きに取り入れて踊ることができました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・イメージボードは、動きの幅を膨らませ、子どもたちの意欲を喚起することに有効な働きかけであった。
- ・よい動きを共有させるためには、動きに浸らせ、動きと擬音語をつなぐ方が効果があったのではないかと。

子どもたちは、「ネットの近くまで正確にボールをつないで、相手のいないところにアタックをすれば得点できる」というアタックの秘密を生かしながら二度のリーグ戦を行ってきました。しかし、守りが上達してきたことで徐々にアタックが決まらなくなってきました。そこで本時は、守りが整う前にアタックを打つため、レシーバーやセッターがどのようにつなげばよいかに焦点を当て、「アタックを打つまでの動きの秘密を見つけよう」という学習課題を設定して解決を目指しました。



チームの課題に応じて、練習方法を選択できるようにしておくことで、積極的に練習に取り組む姿が見られました。



場面別作戦シートで、レシーバーとセッターの動き方について話し合い、考えをゲームに生かしていきました。



ヒーローインタビューという発言しやすい場で、子どもたちは、連携するための動きのよさを共通理解していきました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・運動に苦手意識がある子どもでも活躍できるように、教材・教具や働きかけが工夫されていた。
- ・思考する場面を大切にしながら、運動学習量の確保された授業構成を検討していく必要がある。



思春期になるとさまざまな不安や悩みが増えてくる時期であることを学習し、その不安や悩みの対処法に興味をもった子どもたちは、「自分に合った不安や悩みの対処法を見つけよう」という学習課題を設定しました。事例を基にどんな対処をするか話し合い、「対処法貯金箱」に対処法を集めていきました。そして、自分の不安や悩みに合った対処法を選んだり、見いだしたりしていきました。

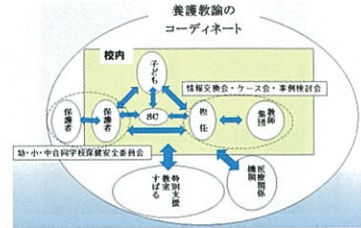
その後の討議では、養護教諭を中核とする本校の教育相談体制についても提案しました。



子どもたちが、不安や悩みの対処法を多く考えられるように、教師の例について考えさせました。



自分で考えたり、板書や友達の意見を参考にしたりして、不安や悩みの対処法を意欲的に書き込んでいました。



教育相談体制を工夫することで、不安や悩みをみんなで解決する意識が高まり、その子に合った支援につなげました。

授業と提案についてのご意見・ご指導

- ・対処法貯金箱に貯めるという方法は分かりやすく、自分でできる対処法を考えることができていた。
- ・養護教諭は、学校の実態に合ったコーディネートの仕方を考え、チームで支援していくことが大切である。

道徳の時間

第4学年「友達のことを考えて ～『ししゅうのあるセーター』～」

読み物資料から、「友達に特別なセーターを汚されて怒っていたけい子が、なぜ笑顔でその友達を許すことができたのか」ということを学習課題として設定しました。自分がけい子なら相手を許せるかどうかについて話し合う中で、けい子の父親の姿から相手の立場や気持ちを考えることの大切さに気付いていきました。そして、互いが笑顔になれる行動をしていきたいという「親切・思いやり」の価値の理解を深めていくことができました。



読み物資料と自分をつないで考えられるように、けい子と同じような経験があることをイラストを用いて想起させました。



相手を許せるかどうか、心の複雑な思いを「心メーター」に表出し、その理由について全体で話し合いました。



さまざまな立場に気付けるように、自分の思いを名前磁石の位置で明らかにさせ、対話への意欲を高めました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・子どもたちは資料と自分をつないで考え、自分の経験を基に話し合うことができていた。
- ・意見が変わらなかった子どもの理由を取り上げることで、より学びを深めることができたのではないかと。

資料から、チームの作戦がうまくいなくて言い争いをしていたこと、最後にはみんながすっきりした気持ちになったことを確認しました。その変化から「どうして作戦がうまくいかなかったのにすっきりした気持ちになったのだろう」という学習課題を設定しました。その後、気持ちがすっきりした理由や自分が大切にしたい考えについて話し合いました。そして「相手の考えをよく聞いて受け入れたい」「自分の考えを伝えたい」といった相互理解につながる振り返りがなされました。



体育のソフトバレーボールでの経験を、写真を提示して振り返らせ、自分と資料をつないで考えられるようにしました。



挙手することで、考えが異なる友達の存在に気づき、人物の名札を胸につけて、互いの考えについて話し合いました。

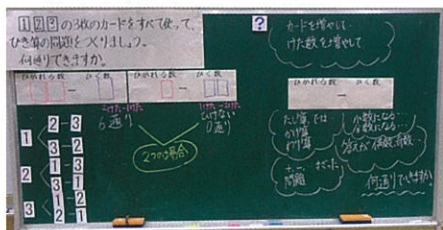


ハートカードに大切だと思う考えを割合で表しました。色分けの理由を話し合い、多様な価値観に気付いていきました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・子どもたちは考えの違いを視覚的に捉えられるカードを見ながら、進んで話し合いができていた。
- ・後半にもつなぐ支援をすることで、もっと自分の体験とつなぎながら語る場が生まれるのではないか。

①, ②, ③の3枚のカードを並べてつくることのできるひき算を、樹形図に表して考え、6通りだと確かめました。その後、子どもたちが考えた新たな問題を発表し、その中から、④のカードを増やして4枚にし、何通りのひき算がつかれるのかを学習課題としました。近くの友達に質問して教えてもらったり、樹形図を確かめ合ったりして求めた後、3桁-1桁の樹形図も区切るところを変えれば2桁-2桁の図になることや、ひく数がひかれる数より大きい場合は除くことをまとめていきました。



子どもたちは、「カードを増やしたら…」「たし算やかけ算、わり算では…」「小数や分数になる式は…」といった新たな問題を表出しました。



「話し合いカード」に従って、自分の話したいタイミングで話し合い、考えを確かめていきました。



3桁-1桁の樹形図に線を引き、「区切るところを変えれば2桁-2桁の図になる」ことを示しました。

シンポジウムでのご意見

- ・子どもが友達に助けってもらえるという学級の雰囲気がよい。学び合いに必要なことである。
- ・子どもが生み出した問題を切り捨てないために、新たな問題は授業の終末で出させる方がよい。

## シンポジウム

全体授業を基に「学びに熱中する子どもの姿」について話し合いが進められました。



【市川先生】意欲面に焦点を当てた本校の研究は価値がありますし、四つの数字でのひき算づくりは大変おもしろい教材でした。例えば、授業の前半にたし算づくりで樹形図をしっかりと習得させた後、ひき算づくりを行う等、「教える」と「考えさせる」のめりはりをつけると、より学びが深まったでしょう。

【笠井先生】問題づくりで難易度の高いものが出るのは、子どもたちが問題づくりに慣れている証拠ですし、自然と話し合える姿もすばらしいです。つまずきこそが学びに熱中できる機会ですから、「深い学びができてよかった」と実感できるように、教師がつまずきに対する対処法を想定することが大切です。

【坂井先生】合理的配慮により、支援が必要な子どもも発表する機会ができ、その成功体験によって自信が付き、興味・関心も高まっていく好循環が生まれます。そのためには、多様性を受け入れる環境づくりが重要です。「教えてもらえてよかったね」という先生の言葉かけや学級の雰囲気がよかったです。

## 分科会講演

### 市川 伸一先生「アクティブ・ラーニングの視点に基づく学習指導について」

#### 1 アクティブ・ラーニングに求められているもの

主体的な学び、対話的な学び、深い学びを満たすものとしてアクティブ・ラーニングが提唱されました。ただ、「主体的に学べていればいい」という表面上の学びのみがクローズアップされることが懸念されています。特に小学校では、発表やグループ学習が行われているとアクティブ・ラーニングができていると思われています。しかし、本当に「深い学び」になっているのか、「活動あって学びなし」になっていないか、問われています。これからは、得た知識を基に学び合ったり教え合ったりしながら問題解決をしていく学びが必要とされています。



#### 2 「教えて考えさせる授業」とは

「教えて考えさせる授業」とは、深い理解を伴った習得をめざす授業で、基本的な内容は、教師からの説明で教えた上で、子どもたちの相互説明活動を中心とした理解確認をします。さらに、理解深化を促す協働的問題解決を設け、授業の最後には、分かったこと、分からないことを記述する自己評価をします。インプットとアウトプットのバランスに配慮し、共通の知識基盤をもった上での対話的な学び、深い学びが大切です。

### 水戸部 修治先生「国語科の学習指導について」

#### 1 学習指導要領改訂の方向性について

これまでも求められてきたように、国語科においては、言語活動を通して、資質・能力を育成していくことが大切になります。また、国語科におけるアクティブ・ラーニングは、言語活動をさらに充実させて、学びの過程の更なる質の向上を図っていくということです。



#### 2 これからの国語教育において重視されること

子どもたちが社会に出て中心を担う20年後、30年後の社会状況を見据えて、どのような言葉の資質・能力が重要になるのかを見極めていかなければなりません。しかし、変化の激しい現代において、この先どのような言葉の力（知識・技能、思考力・判断力・表現力等）が必要になるのかを見極めるのは非常に難しいことです。そのため、今後は、国語の資質・能力を、一つの時間や教材からだけでなく、幼・小・中・高等学校を見通して明確化していくことが必要になります。生活や社会を創り上げていく能力の基盤となる、質の高い言語活動を通して、また、子ども自らが課題を解決していく過程を通して、言葉の力を獲得していけるような授業づくりを、これからも大事にしていくことが求められます。

## 澤井 陽介先生「社会科の学習指導について」

### 1 次期学習指導要領のポイント

学習指導要領改訂の社会的背景のキーワードとなるのが、「グローバル化と情報化」です。多様な主体が速いスピードで相互に影響し合い、一つの出来事が広範囲かつ複雑に伝播し、先を見通すことがますます困難になる社会の中で、子どもたちがよりよい社会を創っていくために必要な資質・能力を整理しました。各教科との連携が図れるよう、教科横断的に資質・能力を描き、汎用性の高い能力と教科の特質とに分けました。そして、実社会と学校教育とが連携・共有しながら、子どもの学びが深まるような教育課程を目指した改訂になっています。



### 2 社会科の学習指導について

子どもたちの社会認識を育てるために、社会的な見方・考え方を働かせる必要があります。社会的な見方・考え方とは、追究の視点や方法です。小学校では、位置や空間の広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係の視点から考えていくことで、社会的事象の特色や意味等を考えたり、社会に見られる課題を把握して、社会への関わり方を選択・判断したりできる子どもの育成を目指しています。

## 笠井 健一先生「算数科の学習指導について」

### 1 算数科における「主体的な学び」・「対話的な学び」・「深い学び」

「主体的な学び」では、子ども自らが問題の解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、問題解決の過程を振り返り、よりよく解決したり、新たな問いを見いだしたりする等の学びが求められます。「対話的な学び」では、数学的な表現を用いて論理的に説明したり、考えや事柄の本質について話し合い、よりよい考えに高めたり事柄の本質を明らかにしたりする等の学びが求められます。「深い学び」では、数学に関わる事象や、日常生活や社会に関わる事象について、「数学的な見方・考え方」を働かせながら、新しい概念を形成したり、よりよい方法を見いだしたりする等、身につけた新たな知識・技能を統合するといった思考、態度が変容する学びの実現が求められます。



### 2 算数科の学習指導について

数学的に問題解決する過程において、よりよい方法に洗練させていくための意見の交流や議論等、自分の考えを説明する場を適宜取り入れることが必要です。そして、友達と学び合うことで自己の考えが深まったり、広がったりしたことを実感できるようにすることが大切になります。

## 鳴川 哲也先生「理科の学習指導について」

### 1 次期学習指導要領の方向性について

子どもたちが未来の創り手となるために、急激な社会の変化の中でも、目的に応じて創造的な問題解決を行えるようにしなければなりません。次期学習指導要領では、理科における問題解決の能力として、3年で問題を見いだす力、4年で根拠のある予想や仮説を発想する力等と設定しています。これらは、一つの学年だけで身につけようとするのではなく、4年間を通して育てたい力です。

### 2 理科の学習指導について

理科の見方とは、量的・関係的、質的・実体的等の視点です。理科の考え方とは、比較したり関係づけたり条件に目を向けたり推論したりすることです。理科で育てたい資質・能力を育成するためには、問題を解決する過程で、子どもたちが理科の見方・考え方を自由に働かせられるように、教師が支援していくことが重要です。また、アクティブ・ラーニングの視点から、日々の授業改善をしていくことも重要です。そうすることで子どもたちは、何かを知ること、さらに知りたいことを増やしていきます。そして、知らないことを知ろうと問い続ける、主体的に学ぶ子どもを育てることが大切です。



## 七條 正典先生「『特別の教科 道徳』の学習指導について」

### 1 道徳授業の質的転換について

道徳の特質を生かした「考え、議論する道徳」への転換が求められています。従来の読み物資料から登場人物の心情を読み取るだけの指導を改善する一つの方策として、問題解決的な学習を取り入れることが考えられます。しかし、この問題解決的な学習が学級活動にならないように注意しなければいけません。学級で一つの解決策を話し合いによって導くのではなく、一人一人の考えを大切に、個々の考えが深まればよいのではないのでしょうか。いじめ問題等、学級で起こった問題を道徳の授業だけで扱うのではなく、道徳科を要として、他の教育活動と関連を図りながら指導していかなければならないと考えます。

### 2 道徳授業の質的転換の方向性

道徳科における問題解決的な学習とは、登場人物の心情に共感し、その道徳的状況の解決につながる見方や考え方を、教材を手がかりに多様な視点から考え議論し、深め、自己を見つめていく学習にしなければならないと考えています。



## 植田 和也先生「『特別の教科 道徳』の学習指導について」

### 1 道徳科の評価

評価については、学習指導過程に関する指導を振り返ることが重要です。「ねらいとする道徳的価値の理解を深めているか」「自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深めているか」といった視点から授業を見ることが大切です。例えば、附坂小4年西組の道徳ノートからは、道徳的問題に対する判断の根拠やその時の心情をさまざまな視点から考えようとしていることが分かります。また、発言や記述が苦手な児童が、うなずきながら聞いている姿が増えるといった、発言や記述以外の表出にも着目することが大切です。

### 2 質の高い多様な指導方法

読み物教材を活用しつつ、問題解決的な学習をある部分に取り入れる等、いろいろな要素を組み合わせた指導が考えられます。その際、道徳的な問題か、ねらいに迫る学習か、主題やねらいの設定が十分かということ等に留意することが大切です。道徳教育においては、みんなが一つの話題で語り合う「チーム学校」として取り組んでほしいと思います。



## 坂井 聡先生「特別支援教育の視点を生かした学習指導について」

### 1 「合理的配慮」について

学校教育を受ける場合に、状況に応じて個別に必要とされる「合理的配慮」が法令で定められました。教師は、子どもの実態を把握した上で、その子に応じた支援を工夫し、全員が参加、活動できるような授業を考えることが大切です。また、個別の教育支援計画を作成し、職員間で情報交換をしたり、特別支援コーディネーターを通して近隣の特別支援学校に相談したりして成長記録や指導内容等を共有することが重要です。

### 2 誰もが参加可能な社会へ

2001年に公表された新しい障がい観（ICF）では、「障がいとは、個人の健康状態と背景因子との相互作用ないしは複雑な関係により、参加、活動できない状態」と捉えられるようになりました。つまり、環境を整えることで誰もが参加可能になる、と視点を変えることが大切です。個の特性に応じた指導をし、①共感的に②肯定的に③視覚的に支援することで、できる経験を積ませて、自己肯定感を育てることが大切です。教育が、どの子にも、夢や希望を与えられるものになることを願っています。



